

8月2日。タイのバンコクで、

待望の新都市鉄道レッドライ  
ンの開通式典が開催された。

今回開通したレッドライ  
ンは、バンコクの中心部  
から10キロほど北に  
あるバンスー中央駅  
を中心とした総延長  
41・3キロメートルの  
路線。ドンムアン空港  
などを經由してバンコ  
ク郊外のランシット駅まで  
を結ぶ路線と、西へ向かう  
路線の2つの路線から成る。

正式開業は11月からだが、それまで  
の3か月間は無料で開放されているこ  
ともあり、注目を集めている。新たな  
鉄道網の拡大で、バンコク都市部を中  
心に深刻化する交通渋滞や大気汚染な  
どの解消にも大きな期待が寄せられて  
いる。

### ○タイのまちづくり尽力

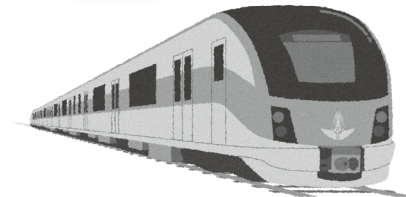
レッドラインの始発駅となっている  
のが、開通と共に一部開業されたバン  
スー中央駅だ。将来は6つの路線が集  
積・交差するASEAN最大級の鉄道  
拠点となる予定だ。

建設する。エリア全体で太陽光など再  
生可能エネルギーの利用を促進、地域  
冷房や、最新技術でエネルギー需給を  
管理するシステムを導入。ゾーン間を  
スカイデッキでつなぎ、公共交通サー  
ビスの小型EV車がデッキの上を走  
行、交通渋滞を緩和するなど、さまざ  
まなプランが検討されている。  
開発は段階を追って進められ、現在  
はエリア内で収集したデータを管理す  
るスマートシティセンターなど、先行  
する3つのゾーンの具体的な検討がス  
タート。世界が注目するまちづくり  
は、未来へ向けての歩みを始めた。

### ○海を渡る日本のまちづくり

約60年の長きにわたり、日本のまち  
づくりを牽引してきたUR。その優れ  
た専門知識やノウハウは、海外でも広  
く求められている。1979年から、  
JICAを通じて31か国に303名の  
職員を専門家として派遣。また、外国  
からの視察や研修においては129か  
国・地域から1万4091人を受け入  
れてきた。

さらに、2018年に海外社会資本  
事業への日本の事業者の参入を促進す  
る通称「海外インフラ展開法」が成立し



阿部民子 text by Tamiko Abe  
illustration by Shigeyuki Sakata

## 世界へと輸出される 日本のまちづくり技術

海外展開支援部 タイ バンコク  
バンスー中央駅周辺都市開発・  
スマートシティ開発 2018年●平成30年～

そして今、その周辺に広が  
る広大なタイ国鉄所有地で大規  
模都市開発プロジェクトが進行中  
だ。タイ政府は、かねてから現在のタ  
イ国鉄の拠点であるフアランポーン駅  
の代替として、近代的な機能を有した  
新駅の開発を検討してきた。その結果  
バンスー中央駅を新設し、周辺をスマ  
ートシティとして再開発することを決  
定。日本政府も国土交通省を中心にと  
これを支援し、2017年にはJICA  
がタイ政府にマスタープラン案を提  
出。2018年からは都市開発専門家  
を派遣。最終完成を目指して、壮大な  
プロジェクトが動き出している。  
このプロジェクトで、日本側の一端  
を担っているのがUR都市機構だ。  
2020年、国土交通省とURは、

てからは、民間企業単体では参入が難  
しい海外での大規模都市開発事業のサ  
ポートも開始。URの公平・中立な立  
場を生かして国内・海外の政府機関等  
と連携を図り、海外事業に日本の事業  
者の参加を促す役割が期待されている。  
2021年現在、URの海外事業は  
タイのほか、中国、ベトナム、インド  
ネシアなど9か国で進行中だ。なかで  
もオーストラリアのシドニーでは、



新設されるバンスー中央駅と  
その周辺では広大なエリアが  
スマートシティに生まれ変わら  
うとしている。

タイ側と、日本の政策・事例の共有や  
知識、アイデアを交換し、相互協力を  
強化する覚書を交換。以降、URは都  
市開発事業についての技術的助言をは  
じめとした総合プロデュースを行い、  
日本企業の参入を促進する環境づくりに  
尽力している。

UR海外展開支援部事業支援課の藤  
田龍担当課長は、2018年JICA  
に出向しタイに2年間駐在。現在は  
URに戻り、日本でタイとの折衝役を  
務めている。  
「今回の事業面積は、全体で約372  
ヘクタール。横浜のみならず、広い地区  
の約2倍の広さがあり、現在はタイ国  
鉄の車両基地やバスターミナルなどが  
ある場所です。タイのバンコク都内では  
今回のような大規模な都市開発は初  
めて。そこで、URが日本国内で培っ  
てきたノウハウをアドバイスしながら、  
ターミナル駅にふさわしいまちづ  
くりのお手伝いをしています」  
新たに計画されているバンスースマ  
ートシティは、最先端の技術導入によ  
り、環境問題や交通渋滞などの社会課  
題を解消する「夢のまち」だ。駅周辺  
には商業施設やオフィスビル、ホテ  
ル、公園や住宅地などをゾーンごと

UR初となる海外事務所を設置。20  
26年に開港が予定されている新空港  
周辺エリアの大規模開発の計画づくりに  
をサポートしている。それぞれの国や  
事業に合わせ、国土交通省やJICA  
日本の投資家やビジネスパートナーと  
海外の政府や企業などをつなぎ、コー  
ディネートやアドバイス、技術支援を  
行っている。前述のUR藤田は、海外  
事業の醍醐味を次のように語る。

「日本の都市開発分野を代表して、相  
手国中央省庁の局長や事務次官クラス  
など、国の中枢を担う方々への助言や  
提案ができるのは、非常にやりがい  
があります。多様な価値観を持つ方の意  
見を細かく聞きながら、一つの方向性  
を決めていくプロセスは、国内も海外  
も同じ。日本の有する経験やノウハウ  
を、海外の文化や生  
活スタイルと融合し、  
Win-Winの関係で仕  
事を進めていきたい。」  
長年培ってきた技  
術とノウハウがつま  
った「日本のまちづ  
くり」の輸出が、今  
まさに始まるうとし  
ている。